



---

---

平成31年3月期 第2四半期 決算説明会

---

---

クボテック株式会社

# 概要

- ◎フラットパネルディスプレイ(FPD)分野では、FPDメーカーの設備投資は引き続き堅調で、液晶や有機ELなどで設備投資が継続されました。
- ◎当第2四半期は、売上は前年同期を大幅に下回り、営業損益、経常損益ともに赤字となりましたが、9月に京都第3工場の土地を売却し、当期利益は黒字を確保しました。
- ◎通期においても、画像処理外観検査装置は予定していた中国向け案件などの売上が見込めず、大幅な減収で減益となる見通しです。
- ◎当社は、引き続き売上確保に向けた受注努力とコストダウンにも積極的に取り組む所存です。また新製品の開発、新規事業の立ち上げ等、収益力向上に努力を重ねてまいります。

# 経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成30年9月期)	前第2四半期 (平成29年9月期)	前 期 (平成30年3月期)	当期予想 (平成31年3月期)
売上高	862	1,574	3,263	1,600
営業利益(△損失)	△246 (△28.6%)	68 (4.4%)	195 (6.0%)	△480 (△30.0%)
経常利益(△損失)	△130 (△15.1%)	63 (4%)	183 (5.6%)	△370 (△23.1%)
当期純利益(△損失)	161 (18.7%)	51 (3.3%)	122 (3.8%)	△80 (△5.0%)

◎当第2四半期は、主力の画像処理外観検査装置が中国向けなどで前年同期に比べ大幅な減収となり、通期においても厳しい状況が続く見通しです。

◎当社は収益性改善のため採算を重視した営業活動を展開しておりますが、今回の大幅な減収は、他社との価格面での競合から受注が確保できず、さらに客先都合による来期への納期変更などが主な要因です。損益面ではこれを主因に、売上高が前期比で半減し、経常損益は370百万円の赤字となる見通しです。

◎海外子会社は、拡販と経費削減に取り組み、収益性を改善してまいりました。  
第2四半期では連結業績に寄与し、通期においても黒字を維持できる見込みです。

# 貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成30年9月期)		前 期 (平成30年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,623	39.6	1,099	28.6
売上債権	1,299	31.7	1,313	34.1
在庫	411	10.0	392	10.2
その他	33	0.9	80	2.0
固定資産	730	17.8	964	25.1
<b>資産計</b>	<b>4,096</b>	<b>100.0</b>	<b>3,848</b>	<b>100.0</b>
流動負債	1,498	36.6	2,317	60.2
固定負債	1,191	29.1	304	7.9
<b>負債計</b>	<b>2,690</b>	<b>65.7</b>	<b>2,621</b>	<b>68.1</b>
資本金	1,951	47.7	1,951	50.7
利益剰余金	△ 517	△ 12.6	△ 679	△ 17.6
その他	△ 28	△ 0.8	△ 45	△ 1.2
<b>純資産計</b>	<b>1,405</b>	<b>34.3</b>	<b>1,227</b>	<b>31.9</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>4,096</b>	<b>100.0</b>	<b>3,848</b>	<b>100.0</b>

◎総資産は、前期末に比べ、現預金で5億2千万円増加し、土地の売却等により固定資産が2億3千万円減少した結果、41億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ、仕入債務の減少と借入金の増加などで7千万円増加し、27億円となりました。

◎純資産は、前期末に比べ、純利益の計上などで1億7千万円増加し、14億円となりました。

# 報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成30年9月期)		前第2四半期 (平成29年9月期)		前 期 (平成30年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日 本	506	58.8	1,311	83.3	2,670	81.8
米 国	187	21.7	191	12.2	386	11.9
韓 国	168	19.5	71	4.5	206	6.3
計	862	100.0	1,574	100.0	3,263	100.0
うち海外	396	45.9	598	38.0	1,948	59.7

◎日本では、主力の画像処理外観検査装置の売上が、国内、中国の大手FPDメーカー向けが低調で前年同期に比べ大幅に減少しました。

◎米国では、3次元CADソフトウェア「KEYCREATOR」の売上は横這いで、損益は黒字を維持しておりますが、新製品の開発と販売に注力しているところです。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連が増収となりました。

# キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成30年9月期)	前第2四半期 (平成29年9月期)	前 期 (平成30年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 267	171	43
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	437	△ 77	△ 190
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	367	47	267
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 12	△ 1	8
V.現金及び現金同等物の増加額	524	139	127
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,067	939	939
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,591	1,079	1,067

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純利益、減価償却費の計上があるものの、仕入債務の減少などで2億6千万円の支出となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、京都第3工場の土地売却などで4億3千万円の収入となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行からの借入と返済の結果、3億6千万円の収入となりました。